

## 第6回 学校2学期制検討委員会 会議録

日時 平成23年11月15日(火) 15:00~16:35

場所 小田原合同庁舎 2E会議室

### 1 議題

(委員長) 第6回を開催します。予定では、本日で終了となります。検討をお願いします。

#### (1) 検討委員会の報告書について

(事務局) 事前に送付した報告書を若干加除修正した。それが、本日配布の色つきの部分となる。教育指導課でも見直し、わかりづらい文言などを修正した。

(委員長) 大まかに加筆されているが、今までの皆さんの意見が網羅されている形であり、保護者が見てもわかりやすくなるよう改訂した報告書である。

(守 屋) 2枚目の「学校運営が回らなくなる」というのは一般的な表現ではないので、今やっていることを、また戻すというのは学校運営に大きな労力を必要とすることが危惧されるや、混乱することが危惧されるという表現に直したらよいのではないか。

(西 村) 円滑な学校運営に支障をきたすことが危惧されるという表現の方がよいのではないか。

(委員長) ほかにないでしょうか

(守 屋) 3枚目の「6今後の2学期制のあり方について」の一つ目の中黒について、各校の成績の扱いをより丁寧な扱っていくということで、2つ下に多忙化の解消もあるが、丁寧に扱うためにはある程度の時間の担保や手立てが必要であると思う。それについてこの会として、何らかの提言などが入るといいと思う。

(委員長) 多忙化の解消があると思われるが。

(守 屋) 多忙化の解消だけでは漠然としている。現在も各校は時間がいっぱいばいばいで仕事をしているのではないか。同じ枠でやっていくのならば、今後も多忙化は解消しきれないのではないか。

(事務局) 守屋委員の意見は理解できる。今まで成績などについて、学校はきちんと説明をしてきているが、保護者にとっては不十分であったのではないか。よって、一つ目の丸の意見がある。「多忙化を解消し」ということについては、アンケートの結果から、子どもや保護者は、先生と子どものふれあいの時間が多くなっていると感じてくれているが、先生方は子どもたちとのふれあいがまだまだ足りない、もっと関わっていく時間が必要であると思っている。2学期制の良さとして、子どもたちと関わる時間の確保という良さはあるのだけれども、まだまだ不十分であると先生たちは思っているという状況もあり、このような文言で表している。

(委員長) 今の事務局の話をお聞きして何かございますか。

(守 屋) 今、事務局が言ってくれたのが私たちの懸念である。私たちは子どもともっと触れ合いたいと思っている教員が多い。ところが、この文言によって、成績に関する説明をする時間をもっととりなさいというようにとられかねないのかと思う。当然、今までは保護者へ成績についての説明が十分されていないという意見があったので、丁寧にしていくことはもちろんではあるが、そのための時間をどこで生み出すのか。一番大事にしたいのは、子どもと関わる時間ではないでしょうか。

(守 屋) 現在も子どもと関わる時間の確保が難しい中、多忙化を解消しという具体的に何をするのか分からない中で、成績に関する説明を丁寧に行うことは具体的に出てきている。確実にこれに関わる時間は増えるわけである。何か具体がなく、ますます忙しくなってしまうたら本末転倒ではないか。

(西 村) たとえば、人的支援の拡充や事務量の軽減などと言ったことを入れてみるという発想はどうか。

(守 屋) 当然人を増やしたり事務量を減らしたりすれば具体が増える。なるべく具体が増える方がよいだろう。それによって空いた時間を子どもと関わる時間に使うことができるようになってくる。要するに、そのような具体がいっぱいあった方がよい。

(委員長) 今のことを入れてよいでしょうか。

(西 村) 多忙化を解消できるように拡充を図れるように人的支援などを入れた方がよいのではないかと。

(三廻部) 現場は現場として何か工夫できることがあるのではないかと。

(事務局) 今のご意見は行政の部分でできることであると思われる。行政としてできることは取り組まなければならないと考えている。行政としてできることと共に、現場からの意見も聞きたい。学校現場として多忙化を解消するための具体策はどのようなことがあるのか。

(杉 山) 現時点では、組合と行政でどこまで折り合いがついているのか。多忙化解消という言葉しか現在は考えられないだろう。継続審議されている大きな問題であるので、現状として細かい内容については口頭のみで伝え、改善されていった中で、その解消の具体が進んでいくことかと思われる。言葉を入れるべきか入れないべきかを話してもらいたい。今は具体を入れられないと思う。

(守 屋) 小田原市としては、衛生委員会で労働環境全般について検討している。各校で何ができるかということで、例えば、チェックリストの活用したりして、それらを現在吸い上げ、どのような取り組みが有効であるかなど話し合いがされる予定である。教育委員会としても努力してきてくれているが現場へは次から次へと新しいことが入ってきて、実際は抜本的な多忙化の解消には至っていない。仕事に追われ、肝心な子どもを見るということができていないということもあったので、一つ具体的な方策を入れていただいた方がよいと思ひ、発言をした。

(杉 山) 衛生委員会を設置し、今進んでいる段階であるところであり、小田原市では衛生委員会を設置し多忙化の解消に向けて努力している、と口頭のみでよいのではないかと。衛生委員会を設置しながら多忙化の解消を進めているということをつけ加えながら、これからもより一層児童生徒との関わりを深めていきたいと説明することで、私としてはこの言葉のみで進めていきたい。

(委員長) 皆さんがよろしければ文面はこのままでいきたいが。

(守 屋) 私としてはできれば入れていただきたい。言葉として残しておくことが伝わるのではないだろうか。

(杉 山) 工夫改善をしていくというだけではいけないのでしょうか。

(守 屋) ある程度具体が入ると違う。多忙化解消とはいろいろなところで言われているが、進んでいかないもどかしさもある。たとえば、先ほどのような人的支援のような具体が入ると教育委員会としてはそのような方策をとっていくし、現場としては、工夫していくこともあるのではないかとといった両面が出てくるのではないかと。

(杉 山) 調査委員会としては、そのようなことも踏まえたうえで、これで十分だと思うがどうであろうか。

(島 津) 多忙化について話し合われているが衛生委員会で話し合われているのが現状なので、ここであえて具体的なことを書くことがよいのだろうか。ここに書かれている文言で留めてよいのではないかと。具体的なことについては衛生委員会の方でこれからも考えていくことであり、それでよいのではないだろうか。

(委員長) すごく微妙な線で話し合っている。これを報告書に載せることによって、どうなのか。調査部会の方では現在進行形のもを載せることがどうなのかという意見である。

(守 屋) この検討委員会としては、話し合っているから工夫改善という意味はわかるであろうが、教育委員会定例会にあがったときにそれが十分伝わるかどうか不安である。

(副委員長) この報告書はあくまで教育委員会への報告である。決してそのまま決定されるわけではない。人的措置や行事の精選など文言として入れて提案するのか、あとは教育委員会の方でそれらを踏まえてどうするのか決定してもらうわけだから、そのあと、正式に発表するときにどう発表するのかは教育委員会の方のことである。

(三廻部) 報告書はそのまま残ります。この報告書も公表していくものとして考えられる。それを教育委員会として訂正することはない。報告書は尊重される。

(副委員長) どういう形で発表されるのか

(三廻部) 「検討委員会から報告書があがりました」ということがまず一つある。2学期制検討委員

会で検討していただいた報告を受けて教育委員会としても協議していかなければならない。いずれにしても報告書そのものは公開される。事例を一つ二つ入れてしまうとそこのみ目がいってしまう。よって、あらゆる視点から盛り込まないとそこにだけいってしまうのではないか。解消策はいろいろなことがあり、いろいろな方面から考えられると思う。

(副委員長) となると、調査委員会のあったようにするしかないのかと思う。

(事務局) 詳しい内容については教育指導課長が定例会で報告する。

(委員長) その説明の時に加えていただけるのか。

(西 村) 具体的にというのがあればここで出していただき、伝えていきたい。

(杉 山) 衛生委員会は小田原市のみなのか。

(守 屋) 全国的にあるが、2市8町すべてにあるというわけではない。比較的小田原は進んで取り組んでいただけていると思う。

(杉 山) 小田原はそういう体制ができていくということ。多忙化解消のために、教育委員会側と組合側とが擦り合わせて衛生委員会を設けながら進めているということがある。多忙化を解消しつつ、児童生徒と関わる時間を確保していこうとしている。こういった衛生委員会があるということを書き添えることは考えられるが、その委員会が今後も続くかどうかはわからない。

(守 屋) 労働安全衛生法で決まっているので、法律が変わらない限りなくなることはないと思う。

(杉 山) 多忙化を解消するために衛生委員会があるということは明記できることだと思う。そこで多忙化解消に向けて取り組み、時間を生み出そうとしていると言ったことが考えられるが、文章的にどうだろうか。小田原市はこのような素晴らしい委員会があり、接点を持っており、工夫改善をしていることを口頭で説明していくことがよいと思うが。

(守 屋) 文言はこのままで、口頭で付け加えてもらうということでもよいと思う。

(小 松) 2ページの下の方の⑥7月までの学習や生活の様子については、夏休み中の面接等によって伝えていくことですね。3ページの上の方の②アンケートの結果では、保護者からの回答とアンケートの結果というのは同じではないか。すっきりしないだろうか。「回答」がなくてもよい。①が一番上にあるのはいかがだろうか。

(委員長) ①と②をひっくり返すということでもよいでしょうか。

(小 松) 「保護者の2学期制へ肯定的であること」と、2ページの「アンケートの結果は尊重すべきである」ということとつながると思われる。結果と意見は分けることがよいのではないだろうか。

(三廻部) ここは何で「次のような」と分けたのか。

(事務局) 今の②については小松委員のご指摘の通り、肯定的な部分については、上の部分に入ることかなと思います。指摘いただいた④とつながっていくものかなと思います。どうして分けたのかというのは、視点としては、上段は現在行っている2学期制の良さといった面、下段はそれとは別の視点での考えもあったということでも分けてまとめてきた。

(委員長) 保護者からの意見としてあったということでも上に入れていくことでいいだろうか。

(事務局) 背景を確認しておきたい。アンケートをする前より、先生も子どもも2学期制についてはよいイメージを持っており、保護者については反対が多いのではないかと予想していたが、思いの外、保護者から2学期制実施の目的に対しての良い結果が得られた。

(委員長) アンケート調査を1文で強く出したように思う。保護者として入れてほしいという意見はあるか？

(井 上) アンケートの結果を尊重するということから削除でよいと思う。

(小 松) 表現上の問題であるが、「尊重すべき」という表現がよい。また、3ページの「次のようなことを」と書かれているので1字下げた方がよいのではないか。

(島 津) 表現上の問題で、「授業時間数」と統一した方がよい。

(守 屋) 3ページの長期休業期間の有効的な活用として、サマースクールの内容の充実などだけでなく、休み前の面談であったり教材研究の充実であったりも含まれるとよいという理解でよろしいか。暑さ対策とサマースクールの充実がある。

(杉 山) 夏季対策は、小学校も中学校もクーラーが欲しいという意見がでていく。そういう意味で意見が付け加えられている。保護者からも強く言うてもらうという意味で書かれている。

- (島 津) 6番のところ、以下という下は使わない。「次の結論とする」や、「上記」も「前述」に変えた方がよいのではないか。
- (鈴木) 前回、また2学期制について何年後にまた検討するという意見があったが、それは文面に載せるのか、ずっと2学期制でいくのかどうなのか。
- (事務局) そもそも、今回のような5年をめどに検討するというのが不明確なところがある。保護者の不安や不満の声があるということから、検討委員会が設定されている。今後再度検討するといった文言を入れると縛られてしまうところが危惧される。学習指導要領の改訂などもまた今後あると思われるので、またそこで検討することは考えるかもしれない。その時にどのような状態であるのか、その時に考えていくべきではないか。
- (委員長) どんなことでもある程度たったら見直すことも必要であると思うが、ここでは文面として入れない。今後また状況の変化で、いろいろな声があったときは考えていくべきである。それでは、次の7回目の開催についてどうするのか。文言の整理だけであると思うが、正副委員長に確認させていただき、もし、必要であれば再度召集させていただくといったことかどうか。
- (事務局) 正副委員長に見ていただき、再度、各委員について11月いっぱいまでに文面を送り、確認させていただくということではいかかか。
- (委員長) 会議としては、次回は開催しない。その他の議案についてはございませんか。
- (委員) なし。
- (事務局) なし。
- (副委員長) 平成18年度から2学期制が実施され、5年目を迎えた昨年度22年度検討委員会が立ち上げられ、2年間という長丁場で、皆さんの貴重な意見をもとに、今日、報告書が仕上がった。これからは2学期制でいくという結果が出たわけであるが、今後課題もあるが、ここで決まったことがいろんな形で周知され、この2学期制をより充実していくことが大事である。2年間、ありがとうございました。
- (委員長) 学期制ということだけでなく、保護者として、現場のつらさ、大変さといったものを具体的なものとしてとらえることができた。変則的な社会を作ったのは我々である。先生方は、ぜひ、小田原をしょって立つ子どもによい教育を受けさせてあげ、元気な子どもたちを社会に出してほしい。